

2015年度
事業報告書

2015年4月 1日から
2016年3月31日まで

公益財団法人 国際文化会館

項目	頁
1. 組織体制	1
2. 募金活動	1
3. 総務関係事項	2
4. 施設管理	2
5. 会員関係	2
6. プログラム活動	7
7. 国際文化会館の運営	29

I. 組織体制

A. 理事会・評議員会

2015年度中に開催された理事会・評議員会は、以下の通りである。

第1回理事会	2015年5月27日開催
第2回理事会	2016年3月11日開催
第3回理事会	2016年4月4日開催（書面表決）
定時評議員会	2015年6月23日開催
臨時評議員会	2016年3月28日開催

B. 理事・監事・評議員

2015年度中の理事・監事・評議員の異動は、以下の通りである。

【理事】（2015年6月23日付）
（重任）岩下 幹

2015年度末現在の役員数は、理事13名、監事2名、評議員19名である。

C. 職員数

2015年度中、新規に1名を採用した。2015年度末現在の職員数は15名（男性4名、女性11名）である。

II. 募金活動

A. 助成金・寄付金

2015年度中に領収した各種助成金・寄付金の主たるものは、以下の通りである。

国際交流基金	26,232千円（千円未満四捨五入）
日米国際金融シンポジウム	13,500
日米友好基金	7,181
MRAハウス	2,000
東京倶楽部	1,500

渋沢栄一記念財団	1, 200
マンスフィールド財団	1, 000
霞会館	300
入会時寄付金	11, 000
諸寄附	3, 793
遺贈	847

III. 総務関係事項

A. 六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合」(2008年設立)に会館も参加し、この地区のより良い街づくりについて話し合っている。2014年7月に基本計画改良案が策定され、これに基づき事業が進められていたが、震災復興やオリンピック特需などによる建設コスト増加の影響により、施設計画の変更が検討され、今秋に向けて新たな基本計画案の策定が進んでいる。

IV. 施設管理

カスタマーサービス向上の一環として、ホテルシステムの利便性向上並びに効率化を図るため、5月28日～12月25日の期間に新ホテルシステムの導入を行った。また、予てより経年劣化の進んでいた東館北面建具建柱他の補修工事を、7月27日～11月10日の期間に行った。さらに光熱費削減のため、館内の一部照明設備のLED化を、8月12～16日にかけて行った。

V. 会員関係

A. 個人会員

2015年度は、新規入会が111名(日本人81名、日本人以外30名)あり、昨年度比2名増加(日本人3名減、日本人以外5名増)した。退会届提出、死亡、会費滞納による退会者は142名(日本人95名、日本人以外47名)で、昨年度比7名増加(日本人12名増、日本人以外5名減)

した。これにより全体として 31 名の会員数の減少（日本人 14 名減、日本人以外 17 名減*）となり、2016 年 3 月 31 日現在、日本人会員 2,046 名と日本人以外 37 カ国(地域)の会員 849 名の合計は 2,895 名となった。

*韓国から日本への国籍変更 1 名有り

	日本人	日本人以外	小計	合計
新入会員	81 (73%)	30 (27%)		111 (100%)
退会	43	13	56 (39%)	
死亡	39	19	58 (41%)	
会費滞納	13	15	28 (20%)	
小計	95 (67%)	47 (33%)		142 (100%)
国籍変更	+1	-1		
増減	-13	-18		-31

B. 法人会員

2015 年度の新規入会は 5 法人 6 口で、昨年度比 4 法人 4 口減となった。一方 7 法人 9 口の退会及び減口があり、これにより法人会員数は昨年度比 2 法人 3 口減少し、2016 年 3 月 31 日現在、合計 176 法人 206 口となった。

	法人数	口数	昨年度比	
5 口 法人	0	0	-1	(-5 口)
4 口 "	2	8	+1	(+4 口)
3 口 "	3	9	0	
2 口 "	18	36	0	
1 口 "	153	153	-2	(-2 口)
計	176	206	-2	(-3 口)

C. 優待会員

優待会員は会員の種類から廃止されているため、現会員の離任による後任の登録はない。2016 年 3 月 31 日現在、優待会員は 1 名となっている。

D. 図書会員

新規入会者は32名、退会者は29名で、2016年3月31日現在、図書会員は14カ国135名となった。

E. 総収入

2015年度の図書会費を含む会費収入は、¥64,788,276で、昨年度比¥2,646,749減少し、また入会時寄付金収入は¥11,200,000で、昨年度比¥2,050,000減少した。法人会費収入は¥34,717,760で、昨年度比¥1,095,165減少した。

	2015年実績	予算	2014年実績
個人会員費	¥64,788,276	¥67,000,000	¥67,435,025
入会時寄付金	11,200,000	14,000,000	13,250,000
法人会員費	34,717,760	35,000,000	35,812,925
合計	<u>¥110,706,036</u>	<u>¥116,000,000</u>	<u>¥116,497,950</u>

F. 会員晩餐会

2015年度は、11月27日に特別ゲストとして細川護熙元首相・永青文庫理事長をお招きし、襖絵、陶芸、フレスコ画、書などの作品についてスライドを用いてお話しいただいた。当日は80名の会員が集い、交歓のひとつときをお楽しみいただいた。

G. 新入会員懇談会

2015年度の新入会員懇談会は、10月2日に樺山・松本ルームで開催され、18名の新入会員および同伴者が出席した。

個人会員国籍別統計

(2016年3月31日現在)

国籍／地域	計					計 2016年 3月31日
	2015年 3月31日	新入会員 (+)	退会 (-)	死亡 (-)	会費滞納 (-)	
オーストラリア	27	0	1	0	0	26
オーストリア	4	1	1	0	0	4
ベルギー	3	1	0	0	0	4
ブラジル	1	0	0	0	0	1
カナダ	35	0	1	1	0	33
中華人民共和国	3	0	0	0	0	3
デンマーク	2	0	0	0	0	2
エクアドル	1	0	0	0	0	1
フィンランド	3	0	0	0	0	3
フランス	11	0	0	0	0	11
ドイツ	30	1	0	0	1	30
香港	1	0	0	0	0	1
ハンガリー	1	0	0	0	0	1
インド	7	2	0	0	0	9
インドネシア	3	0	0	0	0	3
アイルランド	6	0	0	0	0	6
イスラエル	2	0	0	0	0	2
イタリア	7	0	1	0	0	6
日本	2,059	81	43	39	13	2,046 *
ケニア	1	0	0	0	0	1
韓国	20	1	0	0	2	18 *
マレーシア	4	0	0	0	0	4
ネパール	1	0	0	0	0	1
オランダ	7	0	0	1	0	6
ニュージーランド	2	0	0	0	0	2
フィリピン	4	0	0	0	0	4
ポルトガル	1	0	0	0	0	1
ロシア	2	0	0	1	0	1
シンガポール	6	0	0	0	1	5
スペイン	1	0	0	0	0	1
スウェーデン	11	1	0	0	0	12
スイス	7	0	1	0	0	6
台湾	3	0	0	0	0	3
タイ	10	0	0	0	0	10
トルコ	4	0	0	0	0	4
イギリス	51	6	1	0	1	55
アメリカ	584	17	7	16	10	568
ベトナム	1	0	0	0	0	1
日本人	2,059	81	43	39	13	2,046
日本人以外	867	30	13	19	15	849
合計	2,926	111	56	58	28	2,895

*国籍変更:韓国→日本

法人会員分布
(2016年3月31日現在)

県／国	4口	3口	2口	1口	法人数	口数
千葉			1	0	1	2
東京	2	2	16	130	150	176
神奈川				1	1	1
富山				1	1	1
石川				1	1	1
愛知				1	1	1
大阪		1	1	3	5	8
岡山				1	1	1
広島				1	1	1
福岡				1	1	1
茨城				1	1	1
ドイツ				2	2	2
香港				1	1	1
オランダ				1	1	1
イギリス				1	1	1
アメリカ				7	7	7
合計						
法人数	2	3	18	153	176	
口数	8	9	36	153		206

VI. プログラム活動

I. 知的対話プログラム

1. アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP)

1996年度以来、国際交流基金との共催事業として実施してきたアジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP) は、2015年度で20年目を迎えた。ALFPでは、毎年アジア各国から7～8名のパブリック・インテレクチュアルを選抜し、フェローとして2カ月間日本に招聘している。滞日中フェローたちは、国際文化会館で寝食を共にしながら、アジア地域や世界に共通する諸課題について議論する。こうした知的対話を通じてALFPは、地域内ならびにトランスナショナルな理解と協力を促進し、アジアのパブリック・インテレクチュアルおよび日本のカウンターパートとの緊密なネットワーク構築を目指している。2015年度は、8名のフェローを招聘した。現在までに、学界、ジャーナリズム、出版、法律、教育、芸術、NGO（非政府組織）、NPO（非営利組織）など、さまざまな専門領域のフェロー117名が選ばれている。

2015年度は、「Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?」という共通テーマのもと、フェローたちは9月7日から10月30日まで主として国際文化会館に滞在し、日本を拠点とする学者、ジャーナリスト、芸術家、NGO/NPOリーダーたちとのワークショップ、リソース・セミナー、フィールド・トリップに参加した。プログラムの最後には公開報告会を開催し、共同作業の成果を交えながら、それぞれの専門や国の現状について発表した。

2015年度に来日した8名のフェローとプログラム概要は、以下の通りである。

アルラナンサム・サルベスワラン／コロombo大学法学部上級講師

(スリランカ)

ジャイディーブ・ハルディカール／テレグラフ紙特派員

(インド)

サラナラット・カンジャンヴァニット／グリーン・ワールド財団会長

(タイ)

カレン・ライ・ユ・リー／ペナン女性開発公社プログラム・マネージャー

(マレーシア)

野村舞衣／在ハンガリー中欧大学経営大学院グローバル戦略連携マネージャー

(日本)

ディナ・ロマ／詩人、デ・ラ・サール大学マニラ校文学科教授
(フィリピン)

ハリー・スルヤディ／インドネシア科学ジャーナリスト協会会長
(インドネシア)

イン・シュシ 殷樹喜／合肥工業大学教授
(中国)

[ワークショップ]

フェローによるカントリー・レポート (1) (9月8日)

フェローによるカントリー・レポート (2) (9月9日)

フェローによるカントリー・レポート (3) (9月10日)

映画『The Animal Communicator』鑑賞と討議 サラナラット・カンジャン
ヴァニット (9月18日)

映画『Nero's Guests』鑑賞と討議 ジャイディーブ・ハルディカール
(10月1日)

[リソース・セミナー]

「アートが紡ぐ、戦争と人間の記憶」石内 都／写真家、若松英輔／批評家、
足羽與志子 (モデレーター) /一橋大学教授 (9月10日)

「コモンズとSHARE HUBのコンセプト」・シェア奥沢訪問 堀内正弘／多
摩美術大学教授 (9月11日)

南アジア・コアセミナー「グローバル化する南アジアにおける構造変容：持
続可能、包括的、平和的な開発」田辺明生／京都大学教授 (9月15日)

東南アジア・コアセミナー「開発主義の終焉とテロ問題」鈴木佑司／日本ユ
ネスコ協会連盟副理事長 (9月16日)

北東アジア・コアセミナー「中国政治と日中関係」高原明生／東京大学大学
院教授 (9月16日)

「日本庭園と美について」内山貞文／ポートランド日本庭園ガーデンキュレ
ーター (9月28日)

「イノベーションのための衛星技術」神武直彦／慶應義塾大学准教授
(9月29日)

「グローバル化のせいでの新自由主義的改革におけるジェンダーの
平等：日本の女性たちが失ったものと得たもの」上野千鶴子／東京大学名誉
教授 (10月5日)

「和食とは？」エリザベス安藤／日本料理教室「文化の味」主宰・食文化ジ
ャーナリスト (10月5日)

「フクシマ後の原子力政策」鈴木達治郎／長崎大学核兵器廃絶研究センター長、教授（10月9日）

新渡戸国際塾塾生、モーリーン&マイク・マンスフィールド財団フェローおよび「国境なき科学」（ブラジル政府による留学生派遣事業）留学生とのディスカッション（10月17日）

「イスラムと今日の世界」加藤 博／一橋大学教授（10月19日）

[徳島・岡山フィールド・トリップ]（9月22日～25日）

徳島県神山町

- セミナー「創造的過疎化と地方活性化」（於：NPO法人グリーンバレー）
- セミナー「お遍路と焼山寺の由来」（於：焼山寺）
- セミナー「新しい働き方」（於：サテライトオフィス「えんがわオフィス」）
- アーティスト・イン・レジデンスのサイト訪問

徳島県上勝町

- 「ゼロウェイスト事業」に関するブリーフィング（於：日比ヶ谷ゴミステーション）
- JA上勝支所訪問
- セミナー「高齢者による葉っぱビジネス」（於：株式会社いろどり）
- 農家訪問

岡山県

- セミナー「日本におけるハンセン病の歴史」（於：長島愛生園）
- セミナー「倉敷市児島産ジーンズの海外展開に向けた取り組み」（於：株式会社ジャパンプルー）
- 「児島ジーンズストリート」見学

[その他の訪問先]

- 藍染作家 Tatz Miki 氏の工房見学（於：代官山）
- 国際協力NGOセンター（JANIC）およびCSOネットワーク訪問
- 朝日新聞東京本社訪問
- NHK国際放送局、ソニー株式会社CSR部、CSOピースシード（於：千葉県成田市）訪問

[ディスカッション・ペーパー発表会議] (9月13日～14日)

フェローが、自身の専門分野や出身国の現状について発表し、日本の有識者と議論を交わす会議を、箱根で開催した。参加者は、以下の通りである。

足羽與志子／一橋大学教授
小川玲子／九州大学准教授
高原明生／東京大学大学院教授
手塚義治／駒澤大学准教授
水野孝昭／神田外語大学教授

2. 牛場記念フェローシップ

現代の複雑化した国際情勢を読み解き、時代の一步先を見据える世界的なオピニオン・リーダーを招聘し、グローバル社会が直面する諸課題について意見交換を行うことにより、日本と諸外国との相互理解の増進を試みるプログラム。滞日中のフェローは、公開講演会と専門家を中心としたセミナー、ワークショップなどに講師として参加するほか、各フェローの希望に応じて非公式な対談やディスカッションの機会を設定する。

2015年度は、2014年度に選出された、ターリク・ラマダーン(Tariq Ramadan)氏(オクスフォード大学教授)の招聘を試みるも、氏の予定と合わず招聘は行われなかった。次年度以降、引き続き招聘を目指す。なお本フェローシップは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施している。

3. 日印対話プログラム Japan-India Distinguished Visitors Program

日印平和条約の締結から60周年を迎えた2012年に、日印両国間に民間レベルの「対話の場」を創出するため、新たな人物招聘事業「Japan-India Distinguished Visitors Program」を国際交流基金との共催で立ち上げた。本プログラムは、社会のさまざまな課題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提案している、インド国内で影響力のある人物を、政治、経済、文化、学術、科学など幅広い分野から年間1名、一週間程度日本に招聘する。招聘フェローは、講演会、関連機関の訪問、地方視察などを通して日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行う。

2015年度は、フェロー候補者のスケジュールが合わず招聘は行われなかった。当該候補者については、これまで複数回招聘を試みるも来日が叶っておらず、次年度以降は、他候補者の招聘を目指す。

4. 日米国際金融シンポジウム（ハーバード・ロースクール）

国際文化会館はハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム（PIFS）との共催で、日米国際金融シンポジウムを実施している。本シンポジウムは、毎年、日米交互で開催され、日米両国の政府高官、政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者など 100 名以上が参加し、2 日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる問題について討議を行う。

第 18 回シンポジウムは、11 月 5～7 日、米国マサチューセッツ州（ハーバード大学）で開催し、日米から 125 名が参加、以下の 4 つのテーマについて討議した。

- 世界規模の大手銀行の終わり？
- 中国の台頭（と崩壊？）：日本、米国、世界金融市場への影響
- 三本の矢の成功の評価
- GPIF の投資戦略と統治の改革：国際資本市場への影響

II. 人材育成プログラム

1. 新渡戸国際塾

新渡戸国際塾は、企業、NGO/NPO、官公庁、研究機関などの若手職員を対象に、国内外の国際的な現場で活躍できる人材の育成を目的に、2008年度から実施しているもので、2015年度に第八期を迎えた。塾長は明石康（国際文化会館理事長）、コーディネーターは渡辺靖氏（慶應義塾大学SFC教授）。6月から12月まで全14回の講義を行った。

第八期には、書類選考（願書・小論文）と面接を経て、企業（金融、商社など）、官公庁および国際協力団体などから 13 名の塾生（平均年齢 32.8 歳）が選抜された。全 14 回の講義のうち 6 回は一般公開した。

本プログラムは、公益財団法人渋沢栄一記念財団と、一般財団法人 MRA ハウスの助成を受けて実施している。

2015 年度のカリキュラムは、以下の通りである。

回	日時	テーマ	講師など
第1回	6月20日	開講式 オリエンテーション	佐藤孝義/MRAハウス理事長 降旗高司郎/国際文化会館常務理事
第2回	6月27日	世界との対話から 見えてくる2030年 の世界（公開）	平林国彦/UNICEF東京事務所代表
特別	7月1日	人口減少時代の日 本の選択—移民政 策は是か非か？	毛受敏浩/公益財団法人日本国際交流 センター執行理事
第3回	7月11～12日 (浜松)	「浜松」から日本の 未来を考える—課 題をチャンスに	鶴田俊美/JICA 日系社会シニアボラ ンティア（「浜松とアマゾンから多文化 共生を見つめて」） 川勝平太/静岡県知事（「歴史から未来 へ—新しい国づくりへの挑戦」） 藤井ロドリゴ/日系人就労準備研修現 地連絡調整員コーディネーター 堀 美千代/菊川お茶農家（「日本にお ける農業の現状と課題について」） 加藤百合子/株式会社エムスクエア・ ラボ代表（「次世代に残す持続可能な社 会を目指して—農業の未来は日本の未 来」）
第4回	7月25日	Rule of Law or Rule Through Law?—主要国法の 域外適用の動向と グローバルスタン ダード化（公開）	茅野みつる/伊藤忠商事株式会社執行 役員法務部長、カリフォルニア州弁護 士
第5回	8月8日	アジア太平洋地域 における日米同盟 —アメリカ海兵隊 を中心に（公開）	ロバート・D・エルドリッチ/前米国海 兵隊太平洋基地政務外交部次長
第6回	8月22日 於：渋沢史料館	Shibusawa Eiichi and People's Diplomacy	渋沢雅英/公益財団法人渋沢栄一記念 財団理事長

第7回	9月5日	「グローバル」に 生きるということ (公開)	昼間祐治／株式会社 IHI 顧問
第8回	9月12日 ～ 9月13日 三浦海岸合宿	巨視的に考える 2030年の世界 「変容するメディア の定義と形態」 「メディアと社会 変革」 「2030年のメディア 論」	会田弘継／青山学院大学教授、共同通 信社客員論説委員 (「思想潮流とメディア—その政策形成 への意味」) 千野境子／産経新聞客員論説委員 (「安全保障と少子高齢化—世論形成の ダイナミズム」) 渡辺 靖／コーディネーター (「パブリック・ディプロマシー」)
第9回	10月3日	特別プログラム	振り返りセッション&グループワーク
第10回	10月17日	What can be done to double the number of international tourists in Japan by the year 2030, while taking account of Japan's characteristics and strengths?	ALFP フェロー、マンスフィールド財 団フェローおよびブラジル国境なき科 学フェローとの対話
第11回	10月31日	15年後の消費社会 —途上国の可能性 を見つめ続けて(公 開)	山崎大祐／株式会社マザーハウス取締 役副社長
第12回	11月14日	塾長との討議 「日本の立ち位置 と生き方」	明石 康／塾長
第13回	11月28日	<i>Kōgei</i> —伝統工芸が 切り拓く新たな世 界 (公開)	室瀬和美／漆芸家、人間国宝
第14回	12月5日	修了式	

2. 日米芸術家交換プログラム（共催：日米友好基金）

米国の芸術家 5 名が来日し、約 3 カ月間、日本の文化・芸術を研究し、創作活動を行ったり、日本の芸術家と交流を深めたりするプログラムで、日米友好基金（Japan-United States Friendship Commission）が主催し、国際文化会館は来日中のフェローの活動支援を受託している。1978 年より実施され、専門スタッフが来日時のオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家や関連団体などへの紹介、情報の提供や通訳など、フェローの活動全般をサポートしている。

2015 年度に来日したアーティストは、以下の通りである。

ジュリアン・バーネット Julian Barnett （振付家）（10月より3カ月）
 ケイティ・サコーン Katie Cercone （インターディシプリナリー・ビジュアル・アーティスト）（2月より3カ月）
 ジョージ・フェランディ George Ferrandi
 （ビジュアル&パフォーマンスアーティスト）（7月より3カ月）
 ポール・キクチ Paul Kikuchi （作曲家）（4月より3カ月）
 モニク・トゥルン Monique Truong （小説家）（3月より3カ月）

また、来日中の米国人芸術家の活動や、彼らと日本人芸術家がコラボレーションする際の発表の場として、「IHJ アーティスト・フォーラム（略称 AF）」（助成：日米友好基金）を不定期に開催している。2015 年度は、日米友好基金が 40 周年の節目を迎えたため、同基金より追加の助成金を得て、4 月 25 日に六本木アートナイト同時開催プログラムとして開催した。なお 4 月 25 日には、「STAR! STAR! CIRCLE!」の上演をも予定していたが、機材トラブルのためやむなく中止し、代わりに急遽アーティスト・トークを開催し、本編の上演は 7 月 6～7 日に延期した。

2015 年度に開催したアーティスト・フォーラムは、以下の通りである。

開催日	タイトル	出演者・講師など
2015 年 3 月 27 日	バイリンガル朗読会「海の放浪者にしみついた哀しみの塩味」	スピーカー：モニク・トゥルン コメンテーター：小林富久子（翻訳者・城西国際大学客員教授）
4 月 25 日	ワークショップ&パレード（六本木アートナイト2015同時開催プログラム）「PRAY WILD（野性を祈れ）」	ワークショップリーダー：ケイティ・サコーン、エリサ・ガルシア・デ・ラ・ウエルタ（Go! Push Pops） ビート（音響）：Dos Global（マイケル・トゥサナ）

4月25日	アーティスト・トーク（六本木アートナイト2015同時開催プログラム）「STAR! STAR! STAR! CIRCLE!」	スピーカー：ジョージ・フェランディ
7月6～7日	観客参加型シンクロ・サウンドプレイ「STAR! STAR! STAR! CIRCLE!」	出演：ジョージ・フェランディ 日本語翻訳：平塚隼介、加勢俊雄 ナレーション（録音）：ジョージ・フェランディ（英語）、三宅由利子、稲毛礼子（日本語）
5月27日	コンサート「ポール・キクチ：RESONANCE（響き）」	出演：ポール・キクチ、クリストファー遙盟（尺八）、中村仁美（箏）、田島和枝（和琴）、三浦礼美（笙）
10月17日	ダンス・パフォーマンス／映像上映「HAFU WAY THERE HAFU WAY HERE」	出演：ジュリアン・バーネット、ジョスリン・トビアス（振付家／パフォーマー）、玉塚 充（ディレクター／パフォーマー）、山川英毅（音楽家） 映像・撮影監督：橋本玲美、マスクデザイン：増渕剛志

III. パブリック・プログラム

1. アイハウス・パブリック・プログラム

(1) 戦後70周年記念プログラム

戦後70周年を迎えた2015年度、モーリーン&マイク・マンズフィールド財団との共催事業として、国内外のさまざまな分野の有識者を招き、多角的に第二次世界大戦後の日本と世界について考えるための連続シンポジウムを開催した。第一回は、現代の世界における中国を多面的に探り、さらに今後の日中関係について徹底的に討議し、第二回は、日本の同盟国である米国の建国以来の理想と現実、その将来像について考え、第三回では現代における平和と文化の諸側面について考察した。最終回には、これからの世界における日本の位置づけと役割について幅広く討議を展開した。

各回のテーマおよび登壇者は以下の通りである。

回	日時	テーマ	講師など
第1回	10月14日	世界の中の中国と新しい日中関係	基調講演：高原明生／東京大学大学院教授 賈慶国／北京大学国際関係学院院长 パネリスト：吉岡桂子／朝日新聞編集委員 フランク・ジャヌージ／マンسفールド財団理事長 モデレーター：川島真／東京大学大学院教授
第2回	12月10日	アメリカの歴史と現在から探る日米関係の基盤	基調講演：ロジャーズ・スミス／ペンシルバニア大学教授 船橋洋一／日本再建イニシアティブ理事長 パネリスト：待鳥聡史／京都大学大学院法学研究科教授 古矢旬／北海商科大学教授 モデレーター：阿川尚之／慶應義塾大学教授
第3回	2016年 1月29日	平和の基盤となる文化・思想を捉え直す	基調講演：ミシェル・ヴィヴィオルカ／パリ人間科学財団長官 青柳正規／文化庁長官 パネリスト：福島安紀子／青山学院大学教授 井上達夫／東京大学大学院法学政治学研究科教授 モデレーター：渡辺靖／慶應義塾大学SFC教授
第4回	2016年 3月8日	世界、そしてアジア、日本の未来を展望する	基調講演：五百旗頭真／熊本県立大学理事長 ジェラルド・カーティス／コロンビア大学名誉教授 パネリスト：川島真／東京大学大学院総合文化研究科教授 西崎文子／東京大学大学院総合文化研究科教授

			渡辺 靖／慶應義塾大学 SFC 教授 モデレーター：明石 康／国際文化会館 理事長
--	--	--	---

(2) アイハウス・ランチタイム・レクチャー

本プログラムは、各分野の第一線で活躍中の専門家を講師に迎え、タイムリーなテーマについて、わかりやすく解説する時事講演会である。

2015年度は、以下の2回の講演会を開催した。

開催日	テーマ	講師
5月19日	グローバル・ジハードの思想と行動	池内 恵／東京大学准教授
11月13日	アンドロイドとロボット社会～世界と日本をつなぐ最先端のロボットとは	石黒 浩／大阪大学教授

(3) 日本理解プログラム

① japan@ihj

「日本理解の促進」を共通項に開催する講演会で、国際文化会館がこれまで築いてきたアカデミズム、ジャーナリズム、アート、ビジネスなどにおける内外の専門家の協力のもとに実施している。いずれの講演も、基本的には通訳をつけずに英語で行うことが特徴となっている。

2015年度は、以下の2回の講演会を開催した。

開催日	テーマ	講師など
6月3日	日本のパラダイスとしてのハワイー消費される熱帯のイメージ	クリスティン・ヤノ／ハワイ大学教授 多田 治／一橋大学教授 手塚義治／駒澤大学准教授 矢口祐人／東京大学教授
11月4日	開発協力大綱から見る日本の国益と安全保障	マリー・ソデルベリー／欧州日本研究所所長、ストックホルム商科大学教授 司会：勝間 靖／早稲田大学教授

② IUCレクチャーシリーズ

主に北米の大学生・大学院生などを対象に、中・上級日本語の集中教育を行う日本語教育・研究機関であるアメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（IUC）、国際文化会館および日本財団の共催事業として2014年度に開始したシリーズ。IUCの卒業生は、日本関係のあらゆる分野で、研究者や政府関係者あるいは実業家として活躍している。本プログラムでは、年2回、IUCを卒業し、現在各界で活躍している専門家を講師に迎えて講演会を実施し、留学生や若手日本研究者が集まるための場を創出している。

2015年度は、以下の2回の講演会を開催した。

開催日	テーマ	講師
5月13日	文学翻訳にまつわる難問	ジュリエット・W・カーペンター／同志社女子大学教授
2016年 2月2日	日本列島万華鏡～生物多様性をフィールドから考える	あん・まくどなど／上智大学教授

③ 日文研・アイハウス連携フォーラム

京都を拠点に、日本の文化・歴史を国際的な連携・協力の下で研究するとともに、外国の日本研究者を支援している国際日本文化研究センター（日文研）と国際文化会館の共同プログラムとして2014年度に新たに立ち上げた。年4回程度、日文研の専任・客員研究員を講師とした講演会を会館で実施することにより、日本研究の最前線を紹介し、日本理解の促進を目指す。

2015年度は、以下の4回の講演会を開催した。

開催日	テーマ	講師
4月21日	ぼくは何故、「まんがの描き方」を海外で教えるのか。	大塚英志／日文研教授
7月16日	伊藤博文を越えて、伊藤博文へー「知の政治家」の残したもの	瀧井一博／日文研教授
12月10日	世界文学としての『源氏物語』	李 愛淑／日文研外国人研究員、国立韓国放送通信大学教授

2016年 2月10日	イタリア演劇からみた日本の 伝統演劇：能、歌舞伎、オペ ラ、バレエ — 「狂乱」ものを 中心に	ボナヴェントゥーラ・ルペルティ／日 文研外国人研究員、カ・フォスカリ大 学教授
----------------	--	---

④ 日本文化講座 Delve into Japanese Culture @ I-House

本プログラムは、日本文化（日本庭園、歌舞伎、墨絵など）についてさまざまな切り口からの講座を行うことで、外国人宿泊者や海外から会館を訪れる方に日本文化に対する理解を深めていただくと同時に、広く日本人の方にも来館いただくことを目的に2014年に開始したプログラム。日本文化を英語で紹介する講座として、東京を拠点に、訪日や滞日外国人向けに日本語や日本文化講座を開催している（有）Kisako Intercultural Instituteとの共催で実施している。2015年度は、以下の3回の講演会を開催した。

開催日	テーマ	講師
4月6日	Ink is Alive: Japanese <i>sumie</i> painting 生きた墨の芸術—墨絵	ジム・ハサウェイ／墨絵画家
12月14日	The Power of Noh: From Japan's Classical Theater to the World's Avant-Garde 能のパワー：日本の古典劇から、世界の前衛劇まで	リチャード・エマート／武蔵野大学教授・シアター能楽芸術監督
2016年 2月23日	The Heart of <i>Washoku</i> : Creating a Seasonal Sensibility 季節を彩る和食の心	安藤エリザベス／日本料理教室「文化の味」主宰・食文化ジャーナリスト

(4) その他

① 東京国際文芸フェスティバル

国際文化会館は、2012年度より日本財団が主催する「東京国際文芸フェスティバル」の一部のセッションを、同財団との共催で開催している。日本財団は、東京をニューヨーク、ロンドン、パリと並ぶ世界の文芸の拠点の一つとして位置づけ、文芸拠点としての日本の文学・文化を世界にアピールするショーケースとして、日本と世界の出版・文芸業界の橋渡し役となるために本フェスティバルを開催している。

2015年度は、国際文化会館にて2つのアジアセッションが開催された。日本財団に加え、国際交流基金アジアセンターが両セッションを共催。セッション2で登壇予定だった中国の女性作家、盛可以氏は、やむを得ない理由により来日が急ぎょキャンセルになった。

開催日	テーマ	登壇者
2016年 3月5日	セッション1 社会のタブーに挑む女性作家 たち～ジェンダー、宗教、共 同体を超えて	スピーカー：桐野夏生（日本）、ディナ・ ザマン（マレーシア）、ジョアンナ・ク ルス（フィリピン） モデレーター：プラープダー・ユン（タ イ）
2016年 3月5日	セッション2 文学から見えてくる、中国と 日本のいま	盛 可以／作家（来日キャンセル）、中 島京子／作家、飯塚 容／中国文学者

② 特別プログラム

A) 牧浦土雅氏講演

本プログラムは、株式会社講談社『COURRIER JAPON』編集部との共催で行われた。本誌で連載を担当する21歳の社会企業家・牧浦土雅氏に登壇いただき、『COURRIER JAPON』定期購読者や一般読者、夏休み中の学生などを主なターゲットに、若者に広く会館を周知する目的で開催された。

開催日	テーマ	登壇者
7月30日	世界から、日本を見る	牧浦土雅／Needs-One Co., Ltd. 共同 創業者、e-Education ルワンダ代表

B) 翻訳書出版記念シンポジウム（渋沢財団共催）

2008年に国際政治学会（ISA）の国際安全保障分野の最優秀賞を受賞した *Painful Choices: A Theory of Foreign Policy Change* の邦訳本『苦渋の選択—対外政策変更に関する理論』（デイヴィッド・ウェルチ著、田所昌幸監訳、千倉書房、2016年）の出版を記念し、渋沢栄一記念財団およびサントリー文化財団との共催で特別シンポジウムを実施した。冷戦後、国際環境の構造が大きく姿を変えるなか、世界の平和へも大きく影響をおよぼす東アジアの対外政策について議論する機会として開催した。

開催日	テーマ	登壇者
2016年 2月3日	対外政策の大変動は起こるか ～安全保障環境の変動と日本 を取り巻く主要国の対外政策 変更の可能性	基調講演：デイヴィッド・A・ウェルチ ／ウォータールー大学教授 パネリスト：山本吉宣／新潟県立大学 教授、東京大学名誉教授 細谷雄一／慶應義塾大学教授 司会：田所昌幸／慶應義塾大学教授

3. 出版

(1) 公益信託長銀国際ライブラリー

2000年7月に設定された「公益信託長銀国際ライブラリー基金」の事業で、前身である長銀国際ライブラリー財団の残余財産を基金として国際文化会館が事業を継承している。政治・経済・社会・文化などの日本人著作を毎年2冊選定し、英訳・刊行し、広く内外に配布し、国際社会の中での日本理解の増進に資することを目的としている。

選定した著作は、翻訳・編集のうえ刊行し、国内外の大学図書館、研究機関、公共図書館、文化施設など、海外2,800カ所、国内700カ所へ無償配布している。

2015年度の事業内容は、以下の通りである。

【配布】

樋口和憲著『笑いの日本文化：「^{おこ}鳥漣」の者はどこへきえたのか？』
(東海教育研究所、2013年刊)

Holy Foolery in the Life of Japan: A Historical Overview by Higuchi Kazunori

翻訳者: Waku Miller

今橋理子著『秋田蘭画の近代：小田野直武「不忍池図」を読む』(東京大学出版会、2009年刊)

Akita Ranga School and the Cultural Context in Edo Japan by Imahashi Riko

翻訳者: Ruth S. McCreery

小倉和夫著『日本のアジア外交：二千年の系譜』(藤原書店、2013年刊)

Japan's Asian Diplomacy: The Legacy of Two Millennia by Ogura Kazuo

翻訳者: David Noble

【翻訳・編集】

熊谷奈緒子著『慰安婦問題』(筑摩書房、2014年)

The Comfort Women: Historical, Political, Legal, and Moral Perspectives by Kumagai Naoko

翻訳者: David Noble

佐藤弘夫著『ヒトガミ信仰の系譜』(岩田書院、2012年)

How Like a God: Deification in Japanese Religion by Sato Hiroo

翻訳者: David Noble

川勝平太著 *The Lancashire Cotton Industry and Its Rivals* (tentative)
by Kawakatsu Heita

『日本文明と近代西洋:「鎖国」再考』(日本放送出版協会、1991年刊)を
全面改編して刊行。

翻訳兼編集者: Jean Connell Hoff

(2) アイハウス・プレス

2006年度より、出版メディアを通して、①国際文化会館のプログラム活動の
成果を広く一般に発信するとともに、②海外における日本理解の増進を目的と
して、日本人による名著を英訳・刊行して発信する活動を実施している。

2015年度は、以下を実施した。

【刊行・配布】

国際文化会館新渡戸国際塾編

『新渡戸国際塾講義録 4 世界を拓くリーダーたちへ』

(3) 定期・不定期刊行物

2015年度は、年4回発行の広報誌 *I-House Quarterly* (A4版/16ページ、和英
併記) を6~9号まで発行し、各界で活躍する方へのインタビューや対談記事ほか、
会館の講演レポート、今後のプログラム案内、施設イベントなどを紹介した。会館を
知らない層、とりわけ向学心の高い30~40代の世代に訴求すべく、各国際機関やメ
ディアなど通常の配布ルートに加え、協賛イベントなどでも積極的に配布した。
通常の発行部数は6,500部。なお、これまで会員向けの『国際文化会館会報』お

よび『*IHJ Bulletin*』に掲載してきた講演録は、2014年6月に立ち上げた会員専用のウェブサイトへ移行し、継続的に発信している。

また、各年度の事業内容をまとめた年次報告書（『国際文化会館の歩み』、*Annual Report*）を会員および関係機関に配布した。

2015年度の刊行物は、以下の通りである。

- A) 英文年次報告書 *Annual Report 60* (2014 年度事業報告、9 月発行)
- B) 和文年次報告書 『国際文化会館の歩み 60』 (2014 年度事業報告、9 月発行)
- C) *I-House Quarterly*
 - No. 6, Summer 2015 (2015年6月発行)
 - ・対談：南條史生（森美術館館長）× 宮津大輔（アート・コレクター）
「現代アートで見るアジアと日本」
 - ・I-House and Me：渡辺 靖（慶應義塾大学 SFC 教授）
 - ・その他 Recent Activities, I-House AtoZ, Program Calendar など
 - No. 7, Fall 2015 (2015年9月発行)
 - ・対談：テオドル・C・ベスター（文化人類学者）× デイヴィッド・リボウィッツ（マグロ輸出会社経営者）
「『生きた江戸文化』ここにあり！」
 - ・I-House and Me：坂口恭平（作家）
 - ・その他 Recent Activities, I-House AtoZ, Program Calendar など
 - No. 8, Winter 2016 (2015年12月発行)
 - ・ALFP Report: 石内 都（写真家）、若松英輔（批評家）
「声なき声に寄り添って」
 - ・I-House and Me：村岡恵理（作家）
 - ・その他 Recent Activities, I-House AtoZ, Program Calendar など
 - No. 9, Spring 2016 (2016年3月発行)
 - ・Special Event: 多和田葉子（詩人・小説家）、川上未映子（詩人・小説家）
「母語の内へ、外へ」
 - ・I-House and Me：近藤正晃ジェームス（マサチューセッツ工科大学客員サイエンティスト）
 - ・その他 Recent Activities, I-House AtoZ, Program Calendar など

IV. 調査研究プロジェクト

1. 外交問題夕食懇談会

外交問題に関心の深い人々に参加いただき、毎回ゲストを迎え、インフォーマルな雰囲気の中で懇談を深めるもの。調査研究プロジェクトとして行っており、得られた成果を他のプログラムの参考にするため、参加者は、学者・研究者、外交実務経験者、NPO、シンクタンク、メディア、経済人など、職種や専門を超えて、異なる分野から少人数に限定している。使用言語は日本語または英語。

2015年度は、以下の懇談会を開催した。

開催日	テーマ	講師
4月28日	習近平は中国をどこへ導くのか	高原明生／東京大学大学院教授

2. アーカイブ化準備

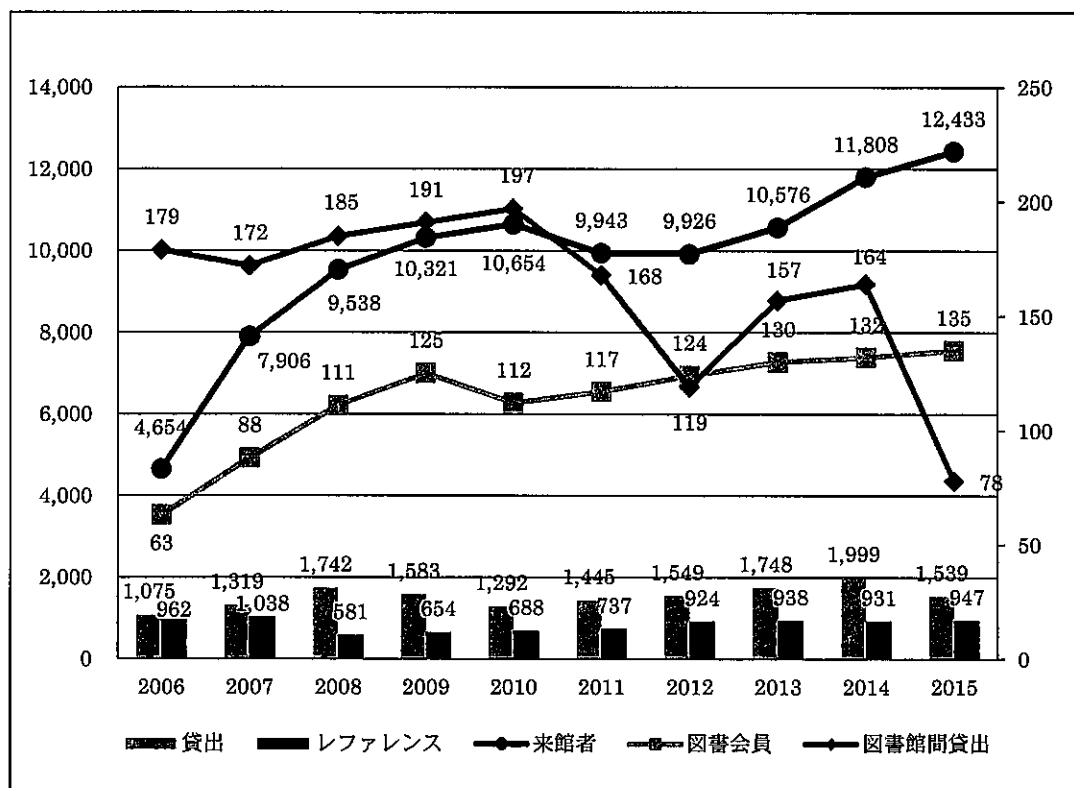
国際文化会館には、写真、事務文書、各種の記録など、戦後の国際文化交流史を語る一次資料として、アーカイブ保存すべき資料が多くある。これらの資料の将来的なアーカイブ化をめざして、2015年度は専門家などへの意見聴取を行った。

V. 図書室

1. 通常業務

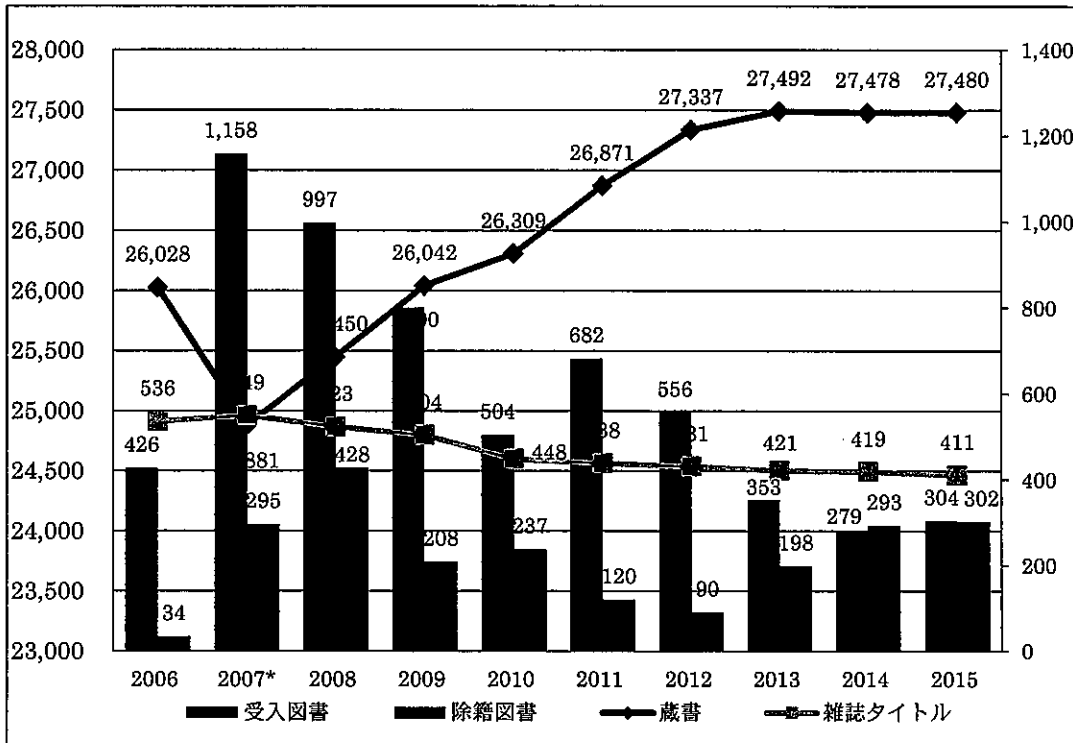
(1) 図書室サービス 2006-2015

来館者の5パーセント増加があった。



(2) 蔵書管理 2000-2015

2014 年度に引き続き除籍冊数を増加し、書棚の空間管理に努めた。



* 2007 年度以降は、図書館システムの LIMEDIO により蔵書数を集計している。

2. その他

(1) Reading about Japan at I-House Library

図書室蔵書の朗読と解説を行い参加者が自由にスピーカーと対話し、交流する機会を作ることを目指して、年に数回リーディングセッションを開催している。各回多くの参加があり、図書室広報の役目を果たしている。

2015年度は、以下の4回の朗読会を開催した。

開催日	タイトル	朗読者など
9月30日	I-House Members read <i>The Lady Aoi</i> —from <i>Five Modern Noh Plays</i> by Mishima Yukio, featuring a traditional Noh play, in a session arranged by Mr. Ogoura Kazuo	モデレーター：小倉和夫 (青山学院大学教授、国際交流基金上席顧問) 演能：寺井千景 (能楽師、観世流シテ方) 朗読：ステュウット・ヴァーナム-アットキン (ナレーター、役者、ライター、放送大学講師) ティモシー・ハリス (役者、放送大学講師) ダレン・クレイグ (日本外国語専門学校教員、元大和日英基金スコラー)
12月10日	Nassrine Azimi and Michel Wasserman read from <i>Last Boat to Yokohama : The Life and Legacy of Beate Sirota Gordon</i>	ナスリーン・アジミ (国連訓練調査研究所 (UNITAR) 広島事務所シニアアドバイザー) ミッシェル・ワッセルマン (立命館大学教授)
2016年 1月18日	Kent Calder reads from <i>Wind of the Age : Collected Reflections : April, 2014–March, 2015</i>	ケント・カルダー (ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院 (SAIS) ライシャワー東アジア研究所所長)
2月19日	Ambassador Radu Şerban reads from his book <i>Closer to the Sky (Sora e Ayumu)</i>	ラドゥ・シエルバン (駐日ルーマニア大使)

(2) 書籍小展示（共催：日仏会館図書室、ドイツ - 日本研究所図書室）

本小展示は日仏会館図書室、ドイツ - 日本研究所図書室と共催で行ったもので、同じテーマについて会館では英語の資料、日仏会館ではフランス語の資料、ドイツ - 日本研究所図書室ではドイツ語の資料を展示した。

開催日	タイトル	展示資料
10月1日 ～ 10月30日	没・50年 谷崎潤一郎	谷崎潤一郎に関する英語資料 (I-House) 谷崎潤一郎に関する仏語資料（日 仏会館） 谷崎潤一郎に関するドイツ語資 料（ドイツ - 日本研究所）
2016年 3月1日 ～ 3月31日	日本の建築	日本の建築に関する英語資料 (I-House) 日本の建築に関する仏語資料（日 仏会館） 日本の建築に関するドイツ語資 料（ドイツ - 日本研究所）

VII. 国際文化会館の運営

2015年度は、研究個室（宿泊施設／全44室）において、15,516名の宿泊客を迎えた。このうち、外国人の利用が64.9%と、国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化、知識人の方々が集う施設としての特色を表している。

会員向け宿泊キャンペーン（全会員対象）

- 夏季宿泊優待券（有効期間：7月～8月）
- 冬季宿泊優待券（有効期間：12月～2016年2月）

別館に位置する会合施設（講堂／セミナー室）での利用者は34,068名、東館の会合施設（岩崎小彌太記念ホール／樺山松本ルーム）では、27,862名に利用された。

宴会キャンペーン

- サマー・パーティープラン（7月1日～9月30日）
 ウィンター&スプリング・パーティープラン（12月16日～2016年3月31日）

料飲施設のティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』は、62,497名に利用された。また主食堂のレストラン『SAKURA』は、16,320名の利用があった。

ティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』キャンペーン・イベント

- お花見ちらし（2015年3月21日～4月5日）
- お花見ローストビーフセット（2015年3月21日～4月5日）
- カレーフェア（2015年7月1日～8月31日）
- パスタフェア（2014年9月24日～10月31日）
- どんぶりフェア（2015年11月1日～12月21日）
- グリルビーフクリスマスセット（2015年12月22日～12月25日）
- 年越し蕎麦（2015年12月31日）
- おしるこ（2015年1月1日～3日）
- ハンバーグフェア（2016年2月1日～29日）
- お花見ちらし（2016年3月26日～4月10日）
- お花見ローストビーフセット（2016年3月26日～4月10日）

レストラン『SAKURA』キャンペーン・イベント

- お花見弁当（2015年3月21日～4月5日）
- 夜桜会席（2015年3月28日～4月5日）
- シェフおすすめディナー 夏の美食フレンチコース（2015年7月1日～8月31日）
- 秋を楽しむシェフおすすめディナー（2015年10月1日～11月30日）
- クリスマス特別メニュー（2015年12月22日～12月25日）
- 洋風おせち料理（2016年1月1日～3日）
- 新春フレンチ会席（2016年1月1日～3日）
- お花見ランチボックス弁当（2016年3月19日～4月10日）
- 夜桜フレンチ会席（2016年3月26日～4月10日）

以上の結果、別館を含む会合施設および料飲施設の総利用客数は、151,528名となった。また会員懇親の催しとして、以下を開催した。

- 観桜会（4月1日～2日 参加者 229名）
- ガーデン・ビアパーティー（7月31日 参加者 210名）
- 国際文化会館会員晩餐会
特別ゲスト：細川護熙様（11月26日 参加者80名）
- ワインパーティー（11月19日 参加者 143名）
- クリスマス晩餐会（12月23日～25日 参加者 183名）

いずれの日も会員の皆様およびゲストの方々が集い、交歓のひとときをお楽しみいただいた。

サービス活動実績

研究個室

自 2015年 4月 1日

至 2016年 3月 31日

	2014年度	2015年度	増減	前年比
宿 泊 者 数	13,647	15,516	1,869	113.7%
一日平均宿泊者数	37.4	42.5	5.1	113.7%
外 国 人 比 率	58.2%	64.9%	6.7%	111.5%
稼 働 率	71.3%	81.7%	10.4%	114.6%
収 入 額	¥129,176,340	¥149,158,903	¥19,982,563	115.5%
一日平均収入額	¥353,908	¥408,655	¥54,747	115.5%

会議室・婚礼関連・料飲施設

自 2015年 4月 1日

至 2016年 3月 31日

		2014年度	2015年度	増減	前年比
セミナー室	収入額	¥59,075,715	¥66,235,992	¥7,160,277	112.1%
	客数	31,987	34,068	2,081	106.5%
	客単価	¥1,847	¥1,944	¥97	105.3%
会議室	収入額	¥188,406,691	¥199,276,482	¥10,869,791	105.8%
	客数	26,222	27,862	1,640	106.3%
	客単価	¥7,185	¥7,152	¥-33	99.5%
婚礼手数料	収入額	¥144,925,905	¥144,063,466	¥-862,439	99.4%
	客数	11,030	10,781	-249	97.7%
	客単価	¥13,139	¥13,363	¥223	101.7%
レストラン	収入額	¥97,133,416	¥101,114,986	¥3,981,570	104.1%
	客数	16,668	16,320	-348	97.9%
	客単価	¥5,828	¥6,196	¥368	106.3%
ラウンジ	収入額	¥107,687,209	¥111,060,567	¥3,373,358	103.1%
	客数	61,985	62,497	512	100.8%
	客単価	¥1,737	¥1,777	¥40	102.3%
合計	収入額	¥597,228,936	¥621,751,493	¥24,522,557	104.1%
	客数	147,892	151,528	3,636	102.5%
	客単価	¥4,038	¥4,103	¥65	101.6%
一日平均	収入額	¥1,636,243.66	¥1,703,429	¥67,185	104.1%
	客数	405	415	10	102.5%